

# 福島と福井をつなぐ 医工連携・学生の輪

福井大学 原子力防災を考える会

安田仲宏

所属：福井大学 附属国際原子力工学研究所

# 概要と活動の主旨

## ○概要

東日本大震災以降に現地で活動した大学教員主体の集まり。平成25年2月より開始した集中講義「東日本大震災をどう考えるか」をきっかけに協力し、大学での教育のほか、学生や協力者を募る形で被災地などでのイベントを進める。

※特にNPOなどとして登録しているものではなく、大学の学外活動の一環として進めるもの。福井大学および附属 国際原子力工学研究所の規約に準じており、大学の活動の範疇を超えるものではない。

## ○目的・趣旨

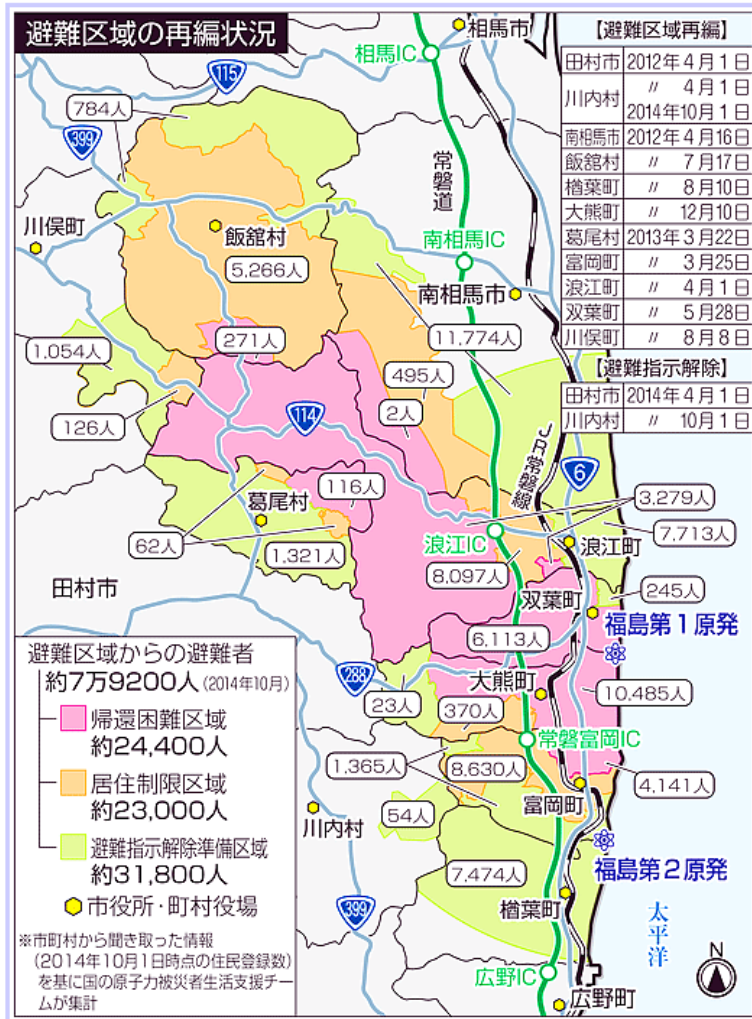
福島において避難解除された後に帰還されている方々や支援活動をする関係者の方々の話を聞き、放射線測定などの貢献をしながら、今後継続的にどのようなサポートが必要かを学ぶ。福井においては、研修の状況を学生が取りまとめ、大学の場で一般の方々などに伝え、支援の輪を広げようとする取組み。

## ○テーマ(原子力を含むエネルギーや放射線等理解促進活動など)

将来、原子力を担う学生や地域の防災を担う学生が「今の福島」から学んだことを、原子力立地の福井の方々と共有する活動。**【貢献しながら学ばせていただく】**

# 企画の動機（背景）

## 福島県内の「避難区域再編」完了



(2014年10月1日現在)

計画的な除染とその結果に基づいて、避難区域の再編(解除)、住民の帰還が進められている。

福島県の「居住制限区域」と「避難指示解除準備区域」について事故から6年の2017年3月までに避難指示を解除し、住民帰還につなげる目標を盛り込む方向で検討  
(東日本大震災復興加速化本部 第5次提言)

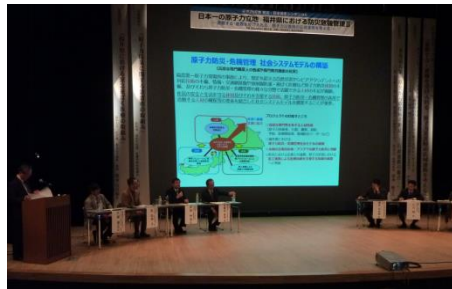
現状、施策の中心は「避難指示解除」「インフラ復旧」とならざるを得ない。



大学生が帰還された住民に寄り添い、大学教育の一環として住民のニーズをかなえる取組み

# 企画の動機（準備状況）

## ○福井における普段の取組み（原子力・原子力災害・放射線の知識普及）



- ・大学で開催するセミナー（学生も登壇） 3年間で45回
- ・一般向け出前講座 3年間で80回
- ※市役所、区長連合、敦賀商工会、各種団体等の参加や支援

## ○本企画に関連するスペシャルイベント（体験を通じた学び 貢献しながら学ばせていただく）



- ・福井県原子力防災訓練
- ・福島のお宅訪問と放射線測定実習
- ・母子との遊びと語り

※これらの普段の取組みと福島等での経験を組合せ、被災地支援を大学の教育の一環に位置付けたい。医工連携をモデルとした防災における他職種連携マインドの醸成。

# 活動の内容(全体像)

## 事前授業

- ・福島事故対応の経験を有する工学系・医学系教員、市役所職員・地元消防による講義  
(事業に参加する学生以外の学生と敦賀市民も対象)
- ・事故の経緯とこれまでの国の対応を学ぶ
- ・放射線に対する注意事項
- ・フィールドワークの計画作成
- ・事前意識調査

7月頃 3時間程度

## フィールドワークと対話

- 川内村での活動
- ・フィールドでの放射線測定などの課題
- ・現地住民やその支援者との対話
- ※支援者との相談の下に内容を設定する
- ・避難解除後の生活支援に必要な事項などを学ぶ
- ・活動の様子を逐次HPなどで紹介

8月9月頃 3-4日間

## 一般向け報告会

- ・一般向けセミナーとして、福島現状を学生が報告
- ・現地で見聞きしてきたこと、福井で今後必要と考えることなどを住民と議論
- ・一連の活動をビデオ撮影、後にDVDやパンフレットなどにまとめて活動の様子を広く展開する。
- ・事後意識調査

10月頃 3時間程度

## ○事前と事後の意識調査により効果を把握

- ・職業意識の向上、地域における支援の輪、防災意識向上などが期待できる
- ・一般住民、地域防災担当や他の学生にもアンケートを実施、広報活動の効果も確認

## ○継続性の担保

- ・教育プログラムの1つである(プロジェクトベースラーニング)としてカリキュラムを構築し予算化、シラバス上で選択できる科目として継続性を担保する



# 補足資料

## ○原子力防災における医工連携

(工学系学生にとっては)

- ・災害発生直後から回復期、復興期における医療・看護ニーズを知り、ものづくりに生かす

例: SNSによる情報伝達ツール

災害情報プラットフォーム

病院や学校における図上訓練教材作成

(医学・看護系学生にとっては)

- ・原子力や放射線に関する基礎知識と体験に基づいた放射線防護など現場対応を学ぶ

## ○支援者

- ・長崎大学 川内村復興推進拠点の活用など

原子力を学ぶ  
工学系学生

災害医療・看護を学ぶ  
看護系学生

他職種との連携は、若い頃からの  
小さな成功体験の積み重ねが鍵

災害時対応

医師・看護師・放射線管理  
のチームが基本